

死者32万人(政府予測) 南海トラフ巨大地震 &直下型地震の安全対策!

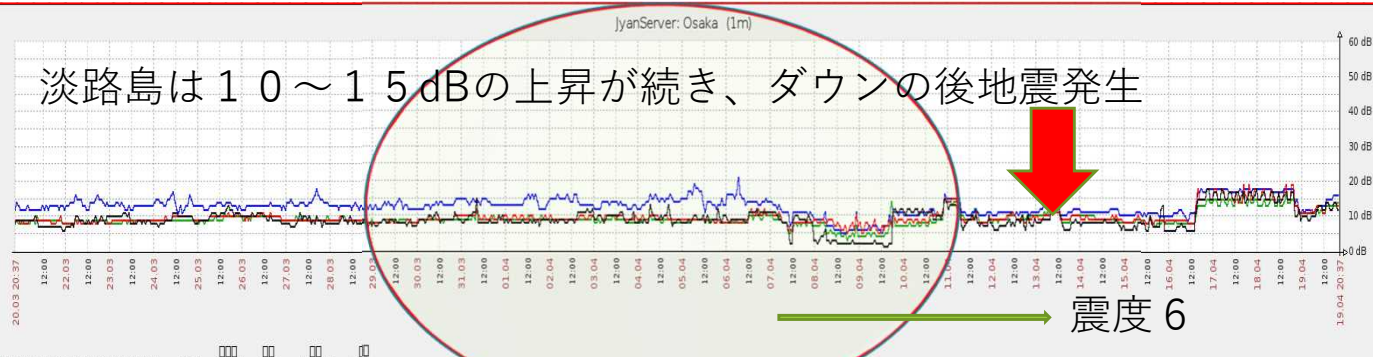
全20ページ(白黒ページは前のページの説明書き)です。
自然の猛威を観測し、災害を予防する (JYAN) 研 代表 國廣秀光

地震の観測例（両方とも≒1週間後に地震発生） 淡路島地震 と 長野地震 100%

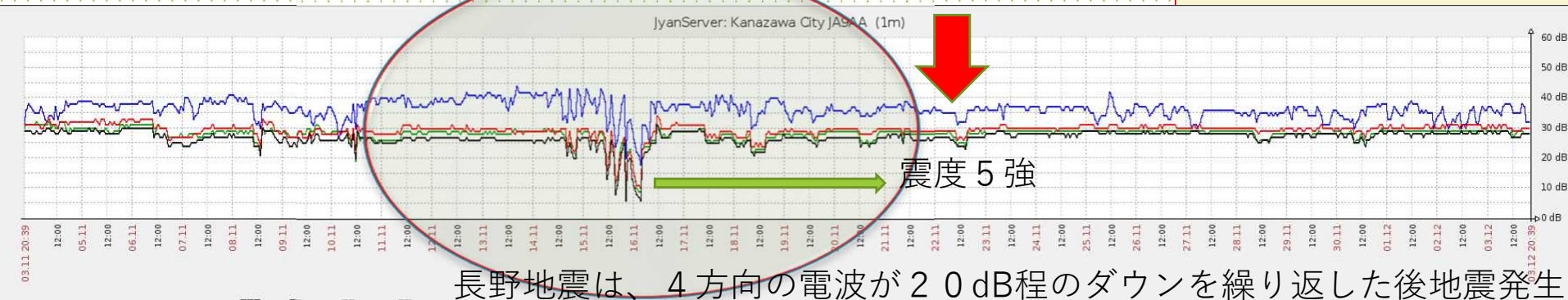
淡路島は
レベルアップ
(2013年4月)

長野地震は
レベルダウン
(2014年11月)

他の例多数有り



淡路地震は、青の姫路電波がダウン、全部もダウンの後1週間後地震発生



地震予知の3要素 揺れの大きさを震度、揺れのパターンでいつ、揺れの方向Checkで場所

熊本地震だけではありません。

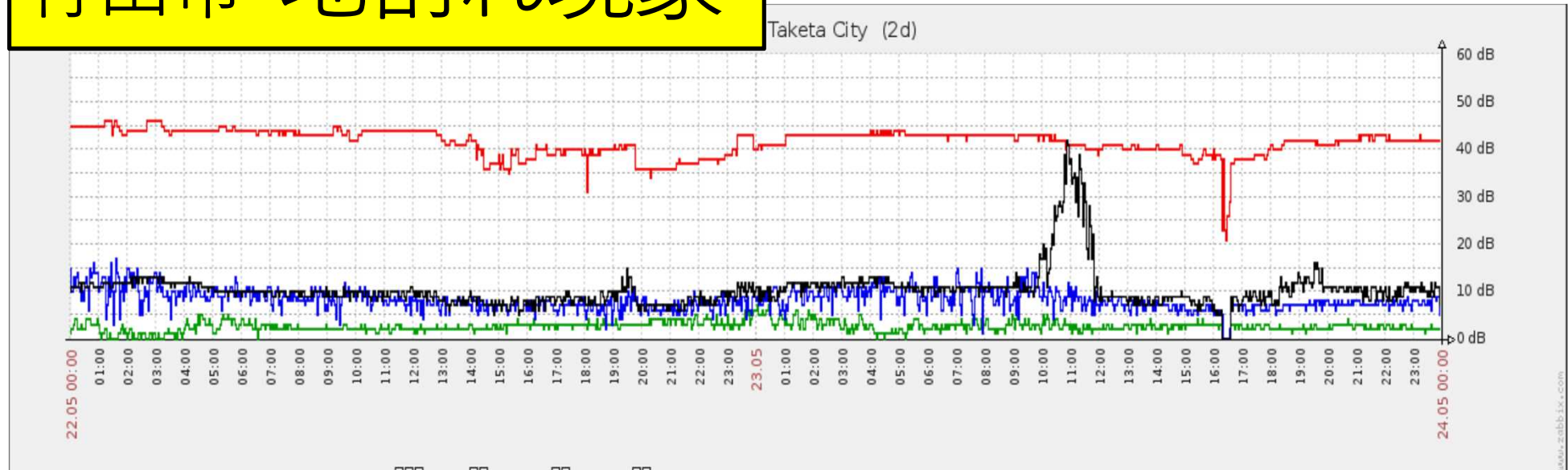
前のGraphは、5年前の淡路島地震の観測です。（新聞にも載りました）

大きい異常変化があってから、5日後に地震が起きています。

下は、4年前の長野地震での観測事例です。やはり、異常があってから約1週間後に地震が起きています。

こんな例が、**いっぱい有る**のです。（もう、大分ネットの観測網が広がり始めてから10年も経ちました。だから自信を持って発言できます。）

竹田市 地割れ現象

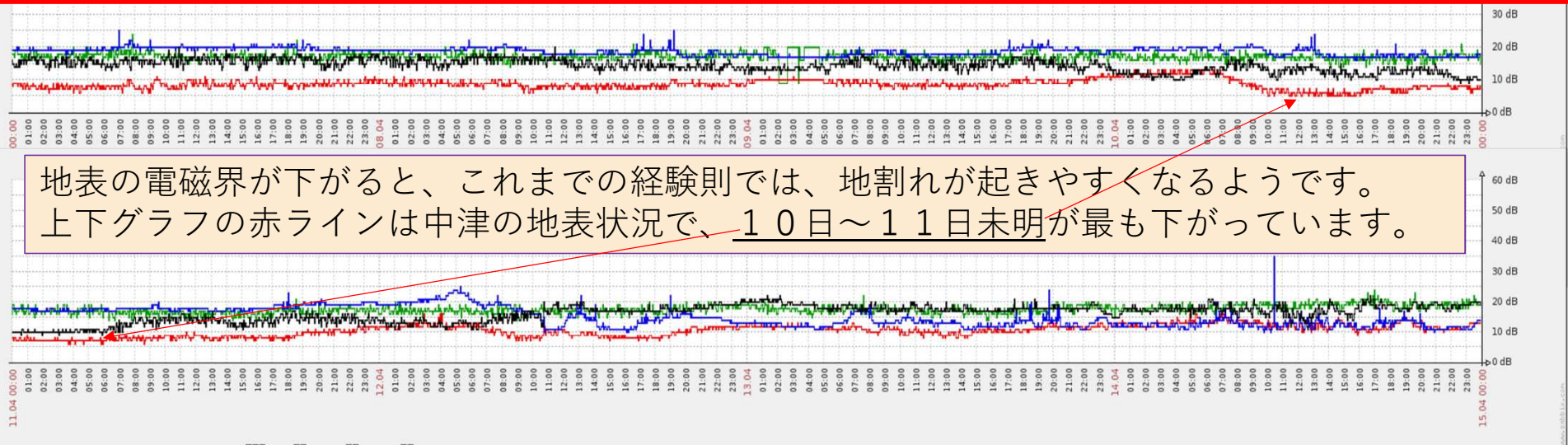


- 竹田の地割れを、赤線グラフの落ち込みが捉えています。
- 地質学の教授の指導で、大分県は水を抜くボーリング工事を多くしましたが、殆ど効果はありませんでした。
- 当HPで予想した通り、3回の大きい地割れ後に収束しました。

竹田市での地割れの観測事例です。

- 竹田市の朝地町で地割れが起きました。
- 丁度、竹田市の直近に観測局がありました。地割れ、**News**があった後、観測**Graph**を見ると異常が記録されていました。
- 確かに、異常が起きてから、地割れが始まっています。従って、地割れも観測**Graph**に現れた事になります。
- 3回の大きな**Graph**変化後、地割れも3回進行しました。
- 地質学者先生の指導で、県がボーリングを何本もしましたが、殆ど効果なしでした。
- 従って、地割れや落ち込みは**SlowQuake**と考えています。

中津の山崩れの原因は、誰も判らない？

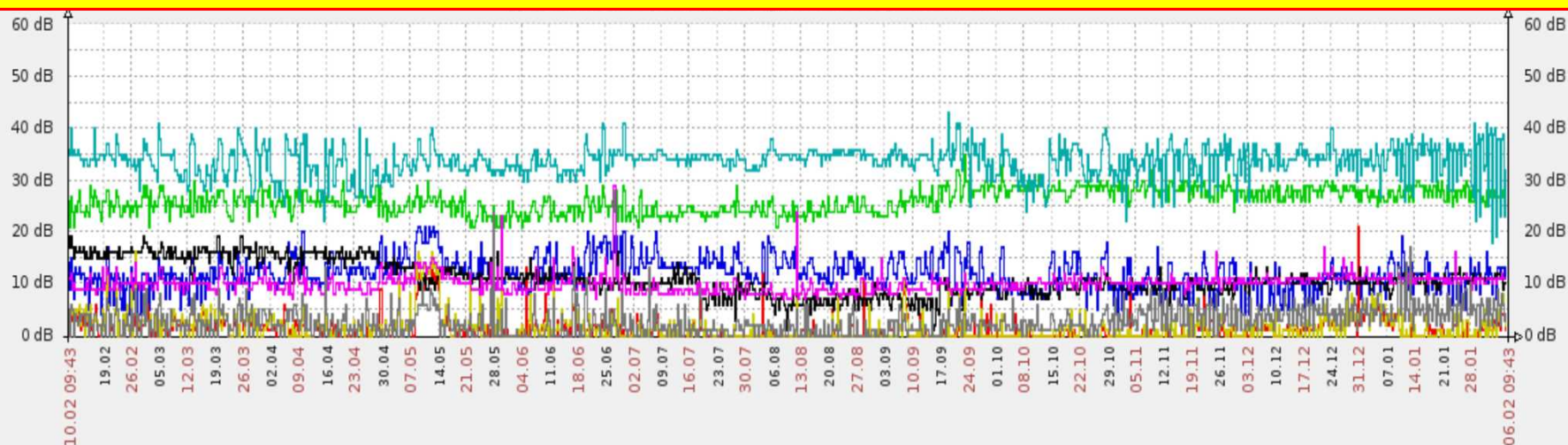


- 学者連は判らないと言うが、私は山崩れの原因を、翌日のホームページに書きました。内容は、
(1) 3月の初旬と中旬に滅多に無い程の大雨で、地盤が軟らかくなり、(2) 山崩れの3日前に風速15mの大風が大杉を揺らし地盤がぐらついていた。＝杉山だけの崩落(3) 急斜面であり、日頃でも石ころが落ちてくるほどで、地滑りや山崩れ危険が高かった。
(結) 電磁観測グラフでは、10日～11日未明に落ち込み＝表層が伸張するの＝で、地割れ危険が高く、落ちそうになっていた大石の落下等が、山崩れのトリガーとなったものと予想しています。
- ◎ 一般的には判りにくいと思いますが、中津地方は1月中旬から電波レベルに異常が起きてました。

山崩れも電磁観測に現れています。

- 中津の山崩れは、多くの学者や大学の教授も原因は判らないと言いました。
- 結局、誰も原因が判らなかったのです。
- しかし、私は、3月に大雨が2回降っている事、3日前に大風が吹き荒れている事、当日の3時頃は、急傾斜地地面の伸びで大きい石が転げ落ちたのではないかと考えています。
- 自然の観測には「地象と気象」の観測が必要なのです。両方を見ないから、誰も、原因が判らなかったのでしょう。

桜島・新燃岳等の観測(鹿児島・宮崎)



- 桜島や新燃岳等の噴火がある時は、上記のように揺れ変化が出ます。
- 火山によって変化模様が異なりますが、火山噴火専用に観測網を置けば、
- 地殻に変動があった段階で、危険度の予測が出来るようになります。

噴火も地殻やマグマの移動である。

噴火も、地殻の変動と大きな関係があります。

マグマの移動や、地殻の変動は、他の現象と似た所があります。

これまでも、火山や噴火は共通点が多いと考えています。

従って、専用の観測点を置けば、良く予知可能と考えます。

観測室
無線は
オタク
3ギガ
迄50年



全周波数の電波を、完全に調べました。

- 10年かかりました。また、電波観測用として、アメリカから、高価な宇宙天文用スペクトルアナライザーを5台+ α を直輸入しました。こんな贅沢な地震電磁気研究室は大学や研究所にも無いのです。
- 全部の周波数とノイズやパルスを長年継続して調べています。
- 観測専用機のV2は構想と制作に10年を要した傑作です。
- FMを利用したのは、北大の森谷先生とタイアップしたからです。

どんな

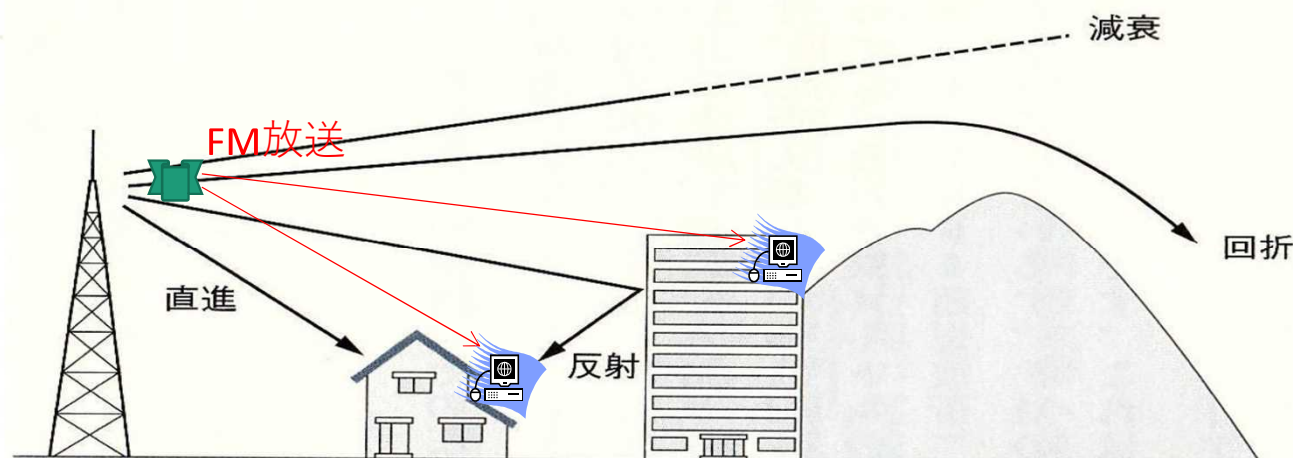
観測

ですか？

電磁波の観測をいろいろな方法で行っていますが、当観測網では、地表を伝わるFM放送電波を(主として)直接的受信で揺らぎ現象等を観測しています。

- 観測網では、直接波を受信するため数m～十数m高の見通しアンテナで観測しDataを収集しています。なお、直接波観測は、電界強度の±両方向の観測が良く判ります。

図2-4 電波の性質



遠くは、100Km程度のフレネルゾーン迄の地表波を観測していますが 電離層は、地80Km～300Kmと高く、観測焦点がボケるので、1局のエリアは横50Km程度としています。

FM受信用
ダイバシティ
アンテナの例



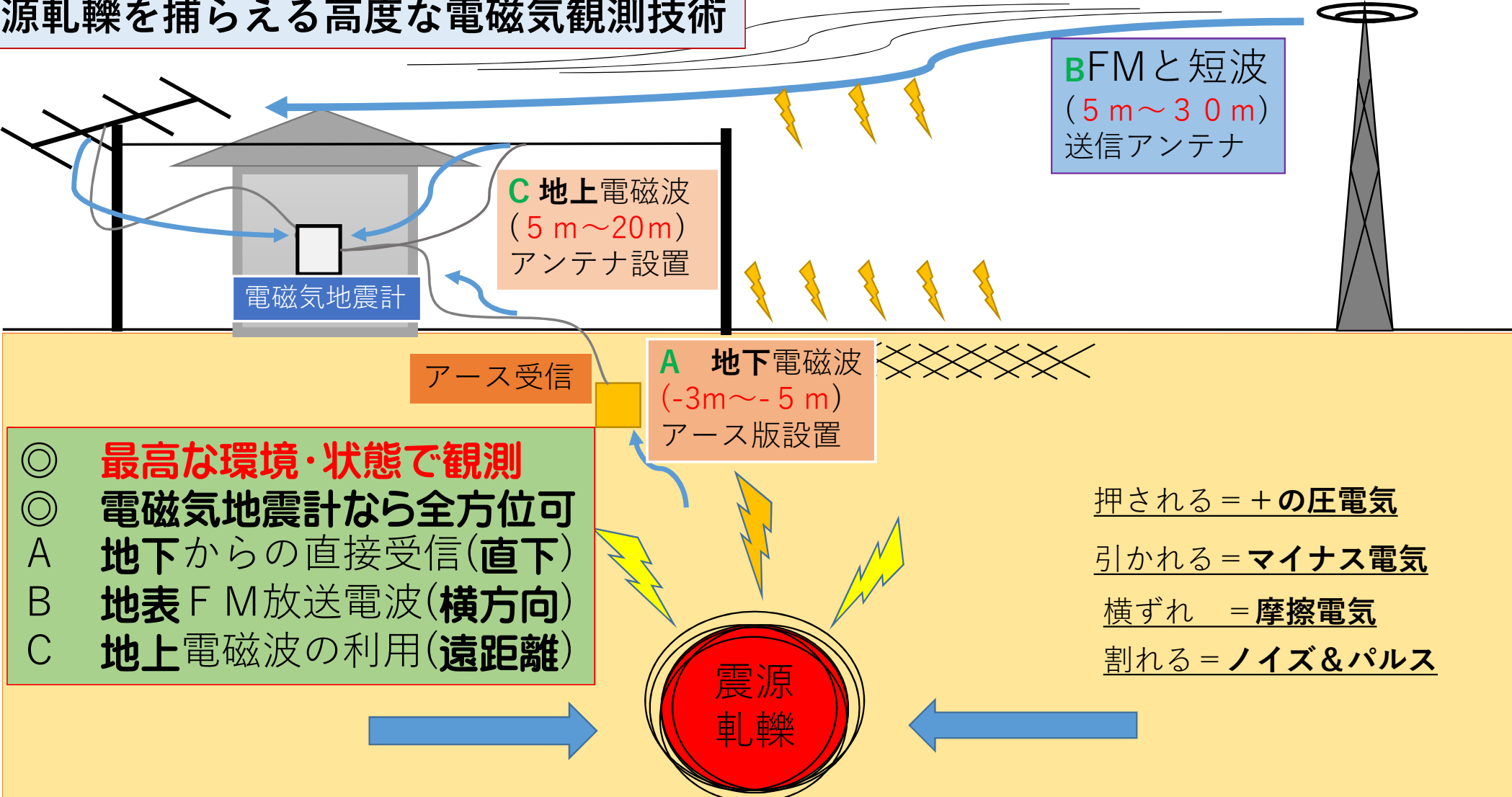
簡単？

No 高度技術が必要

地震研究には電磁気の研究が必要です。

- 私達は、地震と、電波やノイズの専門家です。だから、予知が可能となったのです。
- 現在の日本地震学会の教授連は、電磁気学に疎いのです。
- また、大地の揺れではなく電磁気の揺れを観測するには、高度の電磁気学と卓越した技術が必要で、先端的な知識が必要なのです。
- 写真第二観測室で、第一観測室と解析室が別にあります。
- 宇宙天文に使う高価なスペクトルアナライザーを5台アメリカから直輸入して観測と研究をしています。だから新発見が多いのです。
- 地震予知学には、最新の電磁気学 + α の技術が必要なのです。

震源軌轍を捕らえる高度な電磁気観測技術

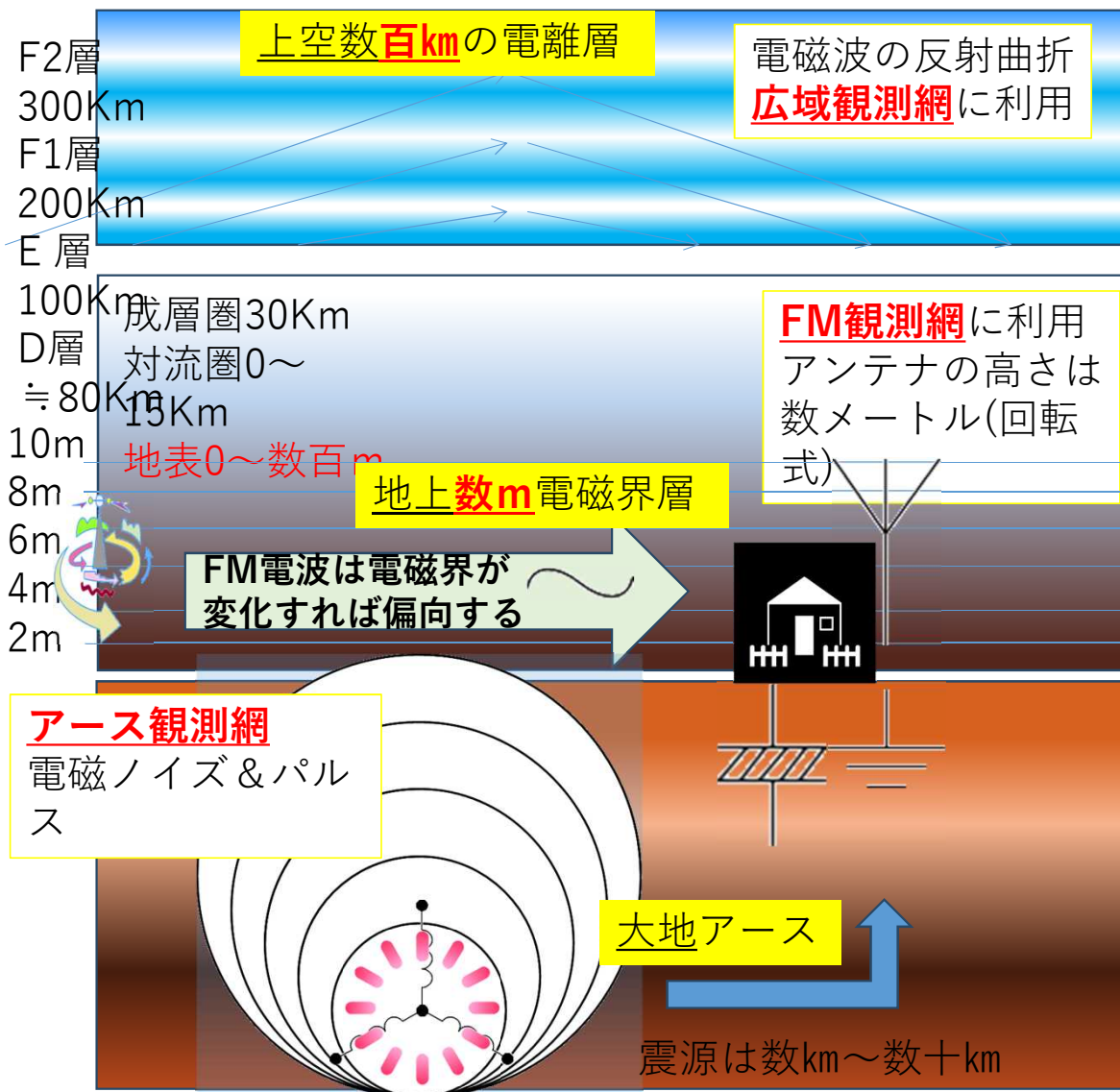


- ◎ **最高な環境・状態で観測**
- ◎ **電磁気地震計なら全方位可**
- A **地下からの直接受信(直下)**
- B **地表FM放送電波(横方向)**
- C **地上電磁波の利用(遠距離)**

押される = +の圧電気
引かれる = マイナス電気
横ずれ = 摩擦電気
割れる = ノイズ&パルス

地震の震源では、押し合い圧し合いが、うねりのように繰り返され、地震が近づくに連れて大きくなってきます。それが「電磁気地震計」に、電磁波の強さや、ノイズ、パルス等として現れるのを観測しています。

上 中 下 観測



3 電離層は
上空 ≒ 200 km
D E F F2 層

1 空気接地
層

1.5 電磁界 層

- 地上高数km~
- 遠地は数百km

2 大地アース

- 震源の深さ
数~数十kmで
軋轢臨界発生

電磁気の観測は 3 方向の観測が必要です。

- 地下、震源では、各種の軋轢が起きています。
- 地表では、軋轢等で発生した電磁気で電磁界ができています。
- 上空では電離層自体が緩やかに変わり電波伝搬も乱れてきます。
- 地殻の軋轢は、押されて圧電気、離されて負電気、擦れて摩擦電気、割れてノイズやパルスなどを発生させています。
- 昔、地震学会の著名な先生から、地下深くで電波ができたり、地上まで出てくるはずは無いでしょう。と、嘲笑されましたが(10年前)・・・理論構成が纏まった(7年前)後から、交流の電磁誘導なら簡単に伝導できますよ。と説明し反論はありません。
- 結局、3方向の観測なら満足できる観測データが得られます。



試作 2 号機

[ラジオロガーはFM
8 CHを受信し全国
Netで、Live観測が
できる最強マシン！

電
波
観
測
装
置



表面側



仲間と作った
地震観測専用
の電波受信機
下 実験機本体の内部写真

全容写真 FM受信専用のNet受信機として開発(2008年)全国Net構築へ

これが、現用の受信装置です。

- インターネットに繋ぎ、1分おきに、観測データをサーバーに送っています。10年経った今でも世界最先端の機械装置です。4～8チャンネルの電波観測のデータを送ってくれます。
- 観測10年で、予測に必要なデータが判りました。今度は大幅に性能を強化し、耐久性もプロ並にします。これまで、性能重視の実験機でしたが、やはり、安定して、確実に異常を捉える受信装置にする必要があります。
- 新型受信装置は、規格が統一され、性能が安定し、障害にも強くなります。大事な観測には、信頼できるデータが必要なのです。

研究23年「できた事」と「新発見！」

- 無線資格は第1級 海外と交信で電波はオタク級の実力
- 地震前兆現象、10年かけて実験し、観測装置も開発した。
- 新発見の連続、20年かけて電磁理論構築、観測で確認済
- 1 電磁波の観測法、2 電波ミラージュ発見、3 アース伝搬発見
- 4 潮汐と同期発見、5 電磁波異常と地震の相関関係発見
- 6 観測網で地震予知 3原則の解析方法発見、7 自動化開発中
- 8 電磁ノイズと電磁パルスの解析によって「**切迫度開発可**」
- 9 地震・噴火・地割れ等と地殻異常の関係を電磁気観測で解明
- 10 「下＝アース,横＝FM電磁波,上＝短波観測」で予測率達成！

新発見は、どれをとっても大発見です！

- 大分県に観測ネットを作ってから10年観測を続けています。従って膨大なデータがあります。（2Tハードディスク60基）
- 観測局も次第に増え、今は約50局で200波を常時観測しています。最初はGraphを見ても殆ど判りませんでした。今は殆どの異常変化が「経験則」となって確実性を高めています。
- どの発見も地震予知には無くてならない大発見で、これらの発見があったからこそ、私の電磁気理論が構成できました。
- これらの発見で電磁氣的な地震予知学が大きく進歩しました。

東日本大震災

2011.3.11(約2万人)



海が燃えた！



まさかこんな津波が来るとは！？

この災害は想定外と言われたが、実は、地震学者・気象庁・行政・住民等の間違いだらけ？の災害だった。
◎三陸は、ハザードマップで地震の来ない所とされ、津波も、3～5m高が、奥では15mもあった。

南海トラフの地震予知は大命題！

トラフ地震は、私達に任せて下さい。

実際に設置するときは、他機関と協力し、簡単に安く、確実に地震予知が可能とできる方式をとります。

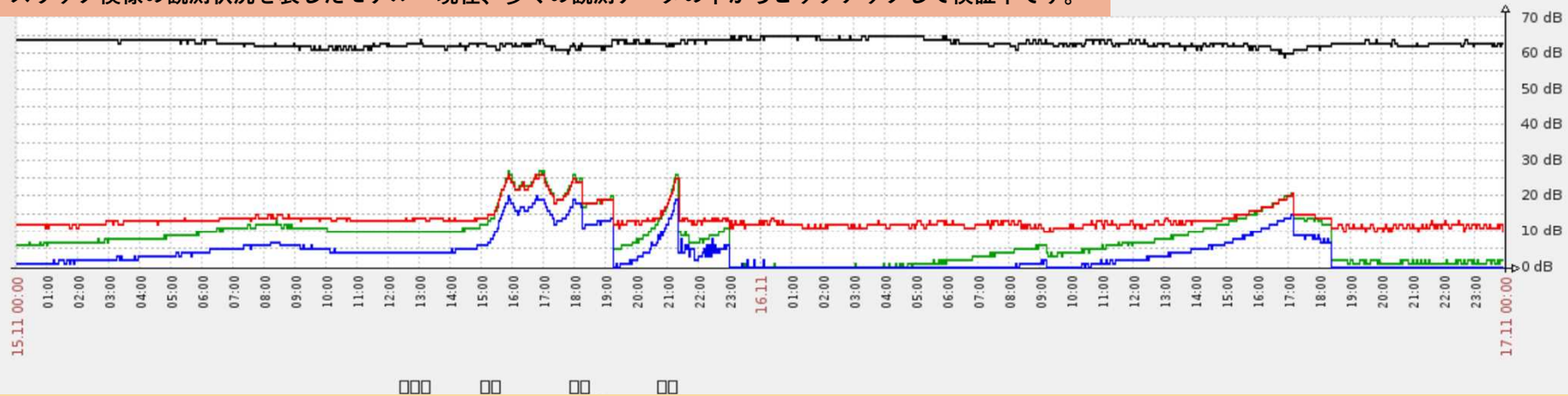
民間会社や大学や専門学者よりも予知確率では比較にならない程上位です。（ただし、観測エリア内に限りますが・・・）

東日本大震災は間違いだらけでした。もう、想定外はいけません。

南海トラフの地震も、観測できた結果でスロースリップを捉えています。新受信方式を、海洋型に改造すれば、熊本クラスの観測が可能となります。ただし、これらの技術は、簡単そうですが、ノウハウがいっぱいあり簡単に真似はできません。

政府の実行指示があれば、直下型からトラフ地震を予知し、最高の貢献をします。

プレスリップ模様の観測状況を表したモデル 現在、多くの観測データの中からピックアップして検証中です。



- トラフ地震が読める **プレスリップ観測技術は検証作業へ**
 - (1) 海岸観測局で、プレスリップ模様の観測データがあります。
 - (2) 海洋型の電磁気地震計を開発中で、トラフ地震を数週前に捕捉します。
- 観測機器やソフト、アンテナ、解析ソフト、統合システム等は**ノウハウが沢山**です。23年間の蓄積技術は、多くが知的財産です。

全国の観測網 (第1期の計画) 電磁観測網予想図 600局 [県単位]で情報配信可能

沖縄諸島

地震等危険情報とは
いつ 月日
どこで 県&市
どれくらいの 震度

右図は200局分の表示図
北海道、東北、信越、関東
北陸、東海、中部、近畿、中国
四国、九州、沖縄、島嶼地方
観測の「どこ?」と、範囲は
600局観測 県～地方単位
1200局観測 県地方の単位
1800局以上 市単位で場所
を発表する事が可能です。

小笠原諸島

県庁と観測点
増加観測点

(各県に4～5局配置
図では170局です。)

発足時計画は600局
二～三期計画600局
設置予定数1,800局
気象庁の観測と他局数(地
震計は3900局)

地震等危険情報を
Danger News
的に配信

今後の目標は！

- プロ仕様の電磁気観測計を作り、全国に電磁気観測網を敷設し、トラフや周辺海域の観測に海洋型電磁気観測網を敷設します。
（構想なのですが、費用的には検討を要します）
- 地象の総合観測センターとして、WeatherNewsのように
（天気予報のように、地象GrandNews状況をお知らせする）
- 気象庁と協力し危険情報を配信して安全な生活に貢献したい。
- 地象総合研究所を作って、世界的な発展拠点としたい。
- ◎以上に協力戴ける方を募集して実現を目指します。

- ・2007年 5月 災害情報学会、日本地震学会などに入会、その後、日本地球惑星科学連合学会入会
- ・2009年 5月 ハムの月刊誌「CQ」で4月・5月にて研究会員募集、15名でJYAN研究会発足
- ・2009年10月 日本地震学会(京都大学)で地震電磁波などの新監視方式などを発表紹介
- ・2011年10月 日本地震学会(静岡)で地震に関する電磁気などの発生と異常理論を発表
- ・2012年 8月 東京ビッグサイトのハムフェアに出展(この年から、毎年展示に参加～連続6回)
- ・2013年 7月7日 JYAN大分ネット第2回総会で研修会 10月2日 産経新聞夕刊「1面トップ」でJYAN研紹介
- ・2014年 3月14日 伊予灘で地震発生全面記録 12月25/26日 日本地震予知学会(電通大)で2項発表
- ・2015年 5月25日～26日 JGUの学会大会(幕張)でFM電磁波観測による潮汐同期等の2項を発表
- ・2016年4月14&16日 熊本地震でM7クラスが2回発生する事を観測で予知できたのはJYAN研のみでした！
- ・2016年12月5日 日本地震予知学会のニューズレター第3号に2Pで当JYAN研が紹介されました。
- ・2017年3月5日 西日本ハムフェアで熊本の観測状況講演 同年5月26日JGU学会大会で熊本地震発表
- ・2017年6月8日 産経新聞にJYAN研が大きく紹介されました。8月月刊誌「CQ」に4PでJYAN研活動が紹介
- ・2017年10月25日 日本地震学会(鹿児島市)で熊本地震での地震観測状況などを詳しく発表しました。
- ・2017年12月25日 日本地震予知学会で熊本地震での地震観測状況などを講演したいへん好評でした。

学会等の発表及び講演 日本地震学会5回、JpGU4回&講演22回(2017-5JpGU発表済み)

記事＝CQ6回新聞4回 観測網は全国で50局が(200波)を観測中！ 東京晴海のハムフェアは6年連続
地震予知アマチュアネット(地震前兆ノイズ研究会・会員ML等350名超・大分県国東市)

JYAN研究会&地震予測観測網等々 会 長 JH6ARA 國 廣 秀 光